

- 農業基本条例第21条(施策の実施状況の報告)に基づき、毎年度作成し、審議会の意見を聴取した上で、議会に報告するもの。
- 構成は、①特集(主要施策)、②本論(本県の農林水産業を取り巻く諸情勢、第5次農林水産業元気創造戦略に基づく施策の取組状況)。
- 令和7年度の特集(6項目)は以下のとおり。

特集

【特集1】「やまがたフルーツ150周年」の取組み

- 「やまがたフルーツ150周年」の記念すべき節目の年に、本県果樹産業の発展につなげるための各種取組みを実施
- 150周年とさくらんぼシーズンの到来を祝う「さくらんぼメモリアルフェスタ」や、県産フルーツの多彩な魅力の発信と農工連携につなげるための「やまがたフルーツEXPO」の開催など、多様な取組みを展開



やまがたフルーツEXPO

【特集2】県産米をめぐる状況

- 高温に負けない生産体制づくりに取り組んだ結果、全国平均に比べ、非常に高い一等米比率を達成(令和7年産米の一等米比率は92.8%(全国75.5%)(R7.12月末))
- 「ゆきまんてん」の令和9年デビューに向け、県内各地で栽培試験を実施。また、今後の振興方針を検討
- 米価高騰の中、消費者から選ばれる地位安定のため、各種ブランド戦略を展開



「ゆきまんてん」の名称公表
(R7.4.25 知事定例記者会見)

【特集3】さくらんぼの減収への対応

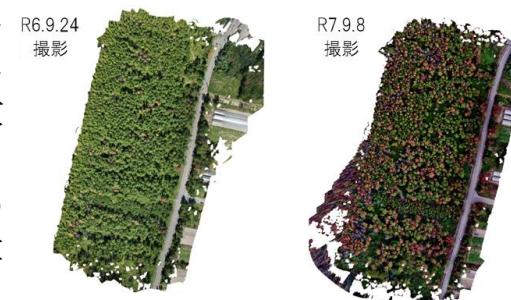
- 開花期の天候不良による結実不良や、収穫期前の降雨で裂果が発生したことなどから、令和7年産の収穫量は、平成元年以降で最も少ない8,310トン。令和6年産(8,590t)に続き、2年連続の不作
- 結実対策に必要な資材の導入、「佐藤錦」から晩生品種等への品種転換、高温対策に必要な設備や資材の導入などの経費に対する各種支援を実施



近年個体数が減少している
マメコバチ(成体と巣)

【特集4】松くい虫被害の現状と二次被害への対応

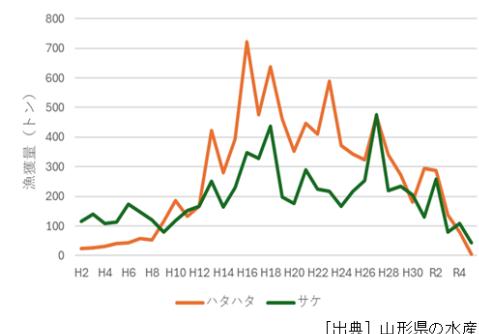
- 庄内海岸林において、高温少雨の影響等により、9月以降松くい虫による被害が急激に拡大。倒木や枝折れ等による二次被害が多数発生
- 二次被害のおそれがある松くい虫被害木の伐倒に係る経費の支援を実施したほか、必要な予算の確保等を政府に緊急要望
- 「庄内海岸林松くい虫被害対策強化プロジェクト会議」を開催し、防除対策と再生を検討



松くい虫被害の拡大・進行状況

【特集5】水産業をめぐる状況

- 海面漁業は、令和5年の漁獲量(2,616トン)・生産額(17.3億円)ともに過去最低を記録。内水面漁業の漁獲量も減少傾向
- 特に近年は、スルメイカやハタハタ、サケなど、本県の水揚げを支えてきた魚種が記録的な不漁
- 本県の水産振興に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るための基本的な計画として第2期山形県水産振興計画を策定



ハタハタ及びサケの漁獲量

【特集6】鳥獣被害の状況と対応

- 本県の鳥獣による令和6年度農作物被害額は、約3億5,500万円(被害額最大であったH16比▲73%)。また、今年度のツキノワグマの目撃件数は過去最多
- 市町村の被害防止計画に基づく、被害防除対策、生息環境管理、捕獲対策といった総合的な被害防止活動及び住民が主体となった総合的な対策への支援(R7:4地区)、鳥獣被害防止対策を指導できる人材育成の実施



ワイヤーメッシュ柵の設置研修